

令和3年6月 「はこでみ親の会」

第12回はこでみ親の会」を開催しました

今回は、
「我が子との対話方法」をテーマに取り上げました。

我が子の成長に伴い親子間の対話が減っていく中で、我が子とのコミュニケーションをどう継続させていくかをグループに別れてじっくり話し合いました。

子どもが年頃になり思春期に入ると親との会話を避けるようになり、親子間の対話が減ることはよくあることです。

しかし、発達特性を持つ子どもの保護者にとっては、「思春期だから仕方ないよね。」「放っておけば自分で考えて行動するでしょ。」とは中々簡単には思えないのです。なぜなら、幼少の頃から我が子の苦手な面を懸命にカバーし続けたにも関わらず、年頃になってもやはり苦手な面が改善されず表面化してしまうことを何度も経験している保護者は、

- ②「学校の準備出来てるかな？」
- ②「友達関係大丈夫かな？」
- ②「授業についていけてるかな？」
- ②「イライラを溜め込んでいないかな？」
- ②「周りに迷惑をかけていないかな？」

などと常に「このままで本当に大丈夫かしら？」という不安を感じ続けているからです。

今後も年齢に関係なく我が子には家族や周りからのサポートやフォローが必要なことは分かっています。放っておく訳にはいきません。

年頃になると親子間の対話が減ることを承知の上で、対応策を考えていく必要があります。

そこで、今回も心から共感し合える仲間同士で意見やアイデアを出し合い、それぞれの親子に合ったコミュニケーション方法を見つけていきました。

